

葉山町教育委員会 7月定例会会議録

- 1 開会年月日 令和4年7月19日(火)
- 2 開会場所 保育園・教育総合センター 会議室
- 3 出席委員 教育長 稲垣一郎
教育長職務代理者 小峰みち子
委員 鈴木伸久
委員 下位勇一
委員 清水衣里
- 4 出席職員 教育部長 田丸良一
教育総務課長 虫賀和弘
学校教育課長兼教育研究所長 濱名恵美子
生涯学習課長 中川禎久
図書館長 中村太郎
- 5 議長 教育長 稲垣一郎
- 6 書記 教育部長 田丸良一
- 7 開会 午前10時00分
- 8 閉会 午前11時45分
- 9 次第 日程第1 前回会議録について(葉山町教育委員会3月定例会会議録)
日程第2 教育長の報告事項について
日程第3 教育委員活動報告
・学校視察について
日程第4 議案第7号 令和5年度使用小中学校教科用図書採択について
日程第5 報告第3号 教育長の専決事項(事務局等の職員の人事異動)について
日程第6 令和3年度葉山町教育委員会事務点検・評価結果報告書(案)について
日程第7 その他

(開会宣言)

教 育 長) ただいまから葉山町教育委員会7月定例会を開会いたします。

本会議につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第3項の規定による定足数に達しておりますので、有効に成立しております。

時刻は10時ちょうどでございます。

今日は傍聴人の方いらっしゃいませんので、先に進めさせていただければと思います。

本日の日程といたしましては、次第のとおりです。会議次第についてのご異議ございませんか。

委員全員) 異議なし。

教育長) ご異議なしと認めます。

それでは、中身に入ってまいりたいと思います。

(前回会議録について)

教育長) 日程第1「前回会議録について」を議題とします。

教育部長、説明をお願いいたします。

教育部長) それでは、6月定例会につきましてご報告いたします。各委員の皆様には会議録を配付させていただいておりますので、内容につきましては省略させていただきます。

なお、6月定例会は教育長及び教育委員の出席が5名、開会午前10時、閉会午前11時36分でございます。

以上です。

教育長) ありがとうございます。ご意見、ご異議はございませんか。

委員全員) 異議なし。

教育長) ご異議なしと認めます。

以上、前回会議録については、原案のとおり承認されました。

(教育長の報告事項について)

教育長) 日程第2「教育長の報告事項について」を議題といたします。

お配りしてあります教育長報告事項のところで項目ごとにご連絡をさせていただきたいと思います。

6月28日(火曜日)に一色小学校、29日に葉山中学校、7月1日(金曜日)に葉山小学校、7月6日(水曜日)に上山口小学校、12日に長柄小学校に、教育委員の皆様と学校視察に伺ってまいりました。

各委員の皆様には次の日程の中でお話をさせていただくこととなりますので、よろしくお話ししたいと思います。順番はこの前のとおりでございますので、よろしくお話しいたします。

なおですね、南郷中学校については、生徒の新型コロナウイルス感染症の関係で視察を行うことが難しいと判断をさせていただきましたので、9月以降に延期をさせていただきますので、よろしくお話ししたいと思います。

さて、それでは、視察についてのお話をさせていただきますが、一つ一つの学校の個別のお話はここでは基本的にいたしません、どこの学校においても私としてお話をさせていただいた点について、何点か挙げさせていただければというふうに思います。

まず最初に、支援教育についてお話を申し上げます。支援教育とは、本来神奈川の場合は特別支援教育だけを指すわけではなくて、一人一人の児童・生徒さんに対してのものを指す言葉です。その中で一人一人の個別最適化を考慮に入れながら、学校現場でどんな形で児童・生徒さんを育成していくかというところの概念だというふうにまずお考えいただければというふうに思います。

支援級での個別支援計画は保護者の方と相談をしながら、年間の中でも何回か向上が見られたところ等を改編をしながら、随時変更しながら進めていくということになっています。学習指導要領での学習評価の3観点については、当然観点別評価でありまして、できなかったところを評価点にするのではなく、できたところをより一層進歩させる、進捗をさせるための評価ですので、支援という観点で授業づくりをお願いしたいというところを申し上げます。

したがって、支援教育ということですので、冒頭で申し上げました特別支援教育においてのところの部分と区別をするわけではなく、一人一人の発達の段階において、あるいは教育のところでの成果において、いい形で学習評価をしていってくださいねというところの部分でございます。

続きまして、ICTの利用についてのお話を申し上げます。これはですね、単にICTを使ってみよう、パソコンを使ってみようというフェーズはもう葉山では終わっていますので、次のフェーズに入る必要性があるということです。児童・生徒たちはもうPCの立ち上げから、ログインやインターネットの検索や、カメラでの撮影などは問題なくできるところまで来ているのが実態でした。教員の授業においてPCをどのように使って今後いくのか、問われていくことになります。オンライン授業では、スタート時の顔見せから始まって、今日の課題の説明をしっかりと画面上で提示し、その後は個人作業でも、ペアでもグループでも、作業の時間を時間指定の上、たっぷりと取ってあげて、作成した、作業した成果物を、例えばロイロノートで回収をする、またリフレクションを最後にしっかりさせること、こんなことが多分一つの授業の在り方になっていくんだろうと考えています。

通常授業においても、今の時間配分を実施させることがきっと基本になってまいるというふうに思っています。ただし、全ての時間でPCを使うことを必要であるということではないので、授業計画を明確にしていく中で、そのPCの使い方というものを各教員が考えていくということが非常に重要だと思います。

例えば、グーグルの中でいうところで、フォームというところのアプリケーションがあります。アンケート機能ですね。これを使って統計的な見せ方も時々には必要になると思います。授業をやっている最中に、ロイロで作ったものを集めて見せるというやり方ではなくて、自分たちがそれをどう考えているのかというのをアンケート形式で、さあ、フォームがあるよ、ここのところ君たちは今どう考えているのかなというのをその場で選択をさせて、それが自動的に目の前でどんどん数字が変わっていく、

グラフがどんどん変わっていくというものを見せるということも時々必要かもしれません。

結果的にですね、重要なことは理解するためのインプット作業と、作業ステップと、アウトプットがされているのかというところが多分全てです。これはこれまでのICTでなかった頃の授業でも実は一緒です。もともとのところでの知識・技能の注入と、それをしっかりと作業をさせて、応用で黒板でやらせる、ノートでやらせる、最終的にそれを個人個人がアウトプットするということが常に授業ではされていたはずですが、それをパソコンによって、よりいい形にできないかというところをもともと考えていくべきだろうと思っています。

リフレクションはメタ認知を行わせるためのツールとして常にやらせてあげると、その出来栄は、まあ別としてですね、思考のサイクルというもの、児童・生徒が物を考えるというサイクルが自動的に身についていくものです。ですから、必ずリフレクション、振り返りというものは授業の中で行っていくべきだというふうに考えています。こんなことをお話をしたところです。

次に、授業の在り方についてですけども、どの教員も目の前の児童に対して一生懸命勉強させているのは、これは事実だと思っています。しかし、これからの教育においては、先ほど申したとおり、知識・技能のみを中心とした勉強ではなく、自らが学ぶことを選択できる学習に変えていくべきであり、当然教員の立ち位置はティーチングではなく、コーチングまたはフォロワーであるということであるべきだと思っています。教えてやるということではなく、したがって、見た目を整える、結果を求める授業ではない、児童・生徒たち一人一人が思考して、さらにテストする思考をしながら、そして失敗をしながら、あらかじめ決まった完成物を目指して作り上げるものではなく、そうではなくて、作っていった結果として、これが一番よかったよねと言えるような形の成果物を作っていく、そんな教育に向かって行ってほしいということを申し上げました。

私のほうからは視察についてのところで、大まかですが、そのような形をお話をさせていただいたというところでご了承ください。

続いて、7月1日、辞令交付についてです。南郷上ノ山公園業務、しおさい公園管理業務、選挙管理委員会の3名の異動辞令がまずありまして、そして新採用として先ほどの自己紹介がありました、採用の生涯学習課への辞令を発令をさせていただきました。長年ですね、異動していただいた方々については教育委員会の所管施設で働いていただいた方ですし、さらに言うならば、生涯学習課でも長いこと働いていた方です。町長の思いはそれなりに、その方々一人一人を、よりいいところでしっかりと働いていただきたいということがございましたので、こちらからもその旨、お話を差し上げながらですね、既に新しい職場で頑張らせていただいております。

さらに、新採用の彼ですけれども、非常に体力的にも、サッカーをやっていたとい

うことですから、元気もある新採用でございますので、今後中川課長の下ですね、一生懸命頑張ってくれるというふうに期待をしておるところでございます。

続いて、7月4日(月曜日)に定例校長会議を開催いたしました。項目別に必要な部分だけお話をしてまいろうと思います。

まずは、こんな時期なんですけど、そろそろ来年度の校内人事のことを学校長として少しずつ構想をしてくださねえというお話をまず差し上げたところなんです。

続きましては、インターネットでの自校の広報についてお話を差し上げました。これはですね、ご承知のとおりで、現在葉山町のホームページ上に各学校のホームページが存在していて、その中で特に公開がされているのは、校長先生が主につけられている学校だより、これが更新がどんどんされていくということがございます。インターネットで発信をするという意味について、もう一度確認をさせていただきました。紙で保護者の方々に配るものというのは、広がりがあるんですけど、ただ、インターネットとなりますと、全世界発信ですよということを意識しながら、学校だよりを作っていたかかないと、その分、ハレーションが起きる場合もあるんですよということを理解しながら作成をしてくださねえということを、これはもう本当に当たり前前の話ですので、校長先生方お分かりだと思いますけれども、改めましてお話を差し上げたところなんです。

続きまして、またちょっと増えてまいって心配しておりますが、新型コロナ対策のマスク着用等々についてのお話を再度差し上げています。中心は確かにコロナの防御という意味でのマスク着用も重要なのですが、時期的に言うならば、教室で大きな声を出さないのであるならば、マスクを外していくということもある意味で必要だということ。特に、外部での、戸外での、校外でのところの活動については、マスクをしなくていいんだという話を明確にさせていただきたいという話をいたしました。全て、どちらかというと熱中症対策です。熱中症で子どもたちが無理をして、マスクをしたままのところでは気分が悪くなっていくということについては非常に大きな問題が起きます。ですので、ここについてはぜひお願いしたいということ。さらに、水分補給と塩分の補給、これも必要なんだということなんです。

中学校においては、小学校高学年はクラブ活動がありますけれども、部活動、クラブ活動の抑制、これもある程度必要なんだということもお話をしております。

救急対応については特に、頭が少し痛くなるという状況は既に熱中症の初期症状でございますので、これについては大丈夫だという感覚を教員が持たないということについては、全職員が理解をしておいていただきたいという話をさせていただきました。決して軽く見ないこと。熱中症の問題はあっという間に重症化していくことがありますので、ここについての考え方を教員のほうにもぜひ持っていただきたいというお話です。学校の先生はコロナの対策もあり、熱中症の対策もあり、本当にね、どうしていいんだということ、なかなかお悩みのことが多いと思いますけれども、やはり臨

機応変、子どもたちの、冒頭でも申し上げたとおりですが、一人一人に対応していただかないといけないところがありますので、そのお子様が体が、元気はつらつなのか、あるいは今日はちょっと元気がなさそうなのかということも、朝の恐らくホームルームで見ていただいていると思いますので、そこも含めてですね、対応をぜひお願いしたいということでございます。

新型コロナにつきましては、昨日の段階ですかね、神奈川県でこれまでで最大値の罹患の数が出ています。葉山でも毎日各学校のどこかのところが学級閉鎖になったり、学年閉鎖になったりしています。ただ、学校も夏季休業がもう間近でございますので、比較的これで、学校の中での集団的などころの罹患が起きるとするのは少し防げる状況になりますので、あとは夏休みの過ごし方ということになってくるんでしょうかね。ただ、部活動、特に中学校においては夏の大会等がまだ控えています。そのための練習があったり、あるいは大会自体のところの部分での熱中症対策やコロナ対策、両方ありますので、ここも先生たちは非常に大変なところになるということがありますので、これも濱名課長を通じて、各中学校長にお話を差し上げているところです。

校長会では、こちらではもうお話をしましたが、6月の定例会が終わりましたので、項目別に前回お話しした部分についてお話を差し上げてあります。中学校あるいは小学校のところの校長先生方、それから教員にとっては、議会で何が語られているかということについては、正直申し上げて、言わない限りあまり興味があるものではないんですね。ですので、ここについては、校長先生方に情報を差し上げて、校長先生方のほうで必要であるかどうかを考えながら、職員に職員会議で話をさせていただかないと、町の人たちや町の議員が何を考えているのかということ分からないままになりますので、これについても少し時間をかけてお話をしたところです。

先般お話ししたところにはなりますが、項目だけ申し上げておきますと、上山口小学校の今後の生ごみ処理がどうなっていくのか、それから、中学校給食提供後の課題がどうなっているのかというところの項目、それから、道路等のところの、民地から木がはみ出していて、非常に交通のところで危険があるところ、この辺が、やっぱり中学校の先生方、校長先生方も、あ、そういえばあるねとおっしゃっていましたので、やっぱりなかなか皆さん上向いて歩いてないですからね。子どもたちはとことこ歩きながら、ここの木が邪魔だとか、いろんなことがあると思います。その木が邪魔をしていて、カーブミラー全く見えないとかね、いろんなことがあるので、ここについてのところは、そういうことがあるんだねという感じでお話を聞かれました。

それから、友好都市の那須市、下田市の教育長さんを訪問させていただきますということ。

それから、南郷上ノ山公園のその後の整備状況について。ご承知の方もいらっしゃったと思いますが、併せて、6月までですかね、キッチンカーをしばらく土・日に出走させていただきます。その関係のところ、さらに今後の予定について。

それから、南郷上ノ山の多目的グラウンドの補助金活用での改修をどうするのかについて。

それから、6小・中学校の公立学校の施設整備を今後どうしていくのか、さらに言うと、国からの補助金がどうなっていくのかというところのお話。

それから、ヤングケアラーについてのお話。これは前にもお話ししたかもしれませんが、これまで葉山町ではヤングケアラーの実態としては、町全体として把握していない、あるいは数がないという形でお話をしてきたんですが、中学校や小学校の校長先生方は実態として、これはヤングケアラーに当たるだろうというところの児童・生徒さんたちの数は学校でつかんでらっしゃいますので、そこについてのところは、これから先のところはゼロだという言い方はしませんというところについてお話を差し上げたところです。

それから、防災対策について、それから小・中学校での環境教育、これは葉山町全体が取り組んでいる、エコもそうですし、プラごみの話もそうですし、そういうことも含めての環境教育。

それから、また南郷上ノ山公園に戻りますが、ドッグランを整備してほしいという話。

それから、現在事業自体ストップしておりますが、給食センターを今後どうするか、候補地がどうなっているのかという話について。

南郷公園を今後どんな形で活性化させていけばいいかというところのお話。

それから、部活動の外部委託が今後令和5年から7年にかけて進んでいくというふうに国が考えていますが、これをどうしていくのかというお話。

それから、小中一貫校の理想形はどんなことなんですかというお尋ねが議会の中ではございました。

中学校給食の進捗度合いは現在どこまでなのかというお話。

それから、これは何回もこれまでも話題に出ましたが、小・中学校の生理用品の提供実態がどうなっているのかというお話。

それから、南郷中学校生徒の通学路に当たるところの、通称シンデレラ階段の整備、これがどうなっているのかということ。

それから、一時帰国生徒受入れ。これは小学校に多いですけども、現在住民票は葉山にあって、でも、実態は保護者のどちらかと海外等に行かれていて、6小・中学校に現実の在籍をしていない、そのお子さんたちが、仮に、例えばアメリカでもヨーロッパでもいいんですが、学期制の考え方が海外と違いますので、大体の場合、6月いっぱいぐらいで大体海外の学校、夏休みに入っちゃうんですね。戻ってこられたときに、小・中学校のほうに通わせていただけますかというところの一つの制度が葉山にもあります。それは次年度に必ず戻ってくるという、もう必ず小学校や中学校に入りますという前提の中で体験入学をする制度は現在あります。ただ、それだけでいい

のかという話もありましたので、これについては今後また考えさせていただいて、小・中学校とも相談をしながら進めてまいるといふところの話。

それから、これ逗子のところの何かでも始まっているようですけれども、環境に配慮した教材選定。これ何かというと、教育委員の方々、行かれたのでお分かりだと思いますが、アサガオの話ですね。アサガオのプラスチックの鉢だとか支え棒の話ですが。この前、新聞に載ってましたけど、逗子のほうはやはりもうそこをしっかりと保護者の方にお話をして、ご自身で環境に問題のないものを持ってくる、あるいは紙で作ったりとか、段ボールで作ったりとか、それから、支え棒は竹等を持ってきてもらってやるという、もうそういう形での実践を逗子のほうが始めていますので、恐らくそういうことも今後考えていけばといふところの前提があった中でのご質問がありましたので。実際行ってみると、どこの学校も全て決まった業者の決まったものがあるような感じでした。ですから、そのところのお話でした。

それから、先ほど申したコロナ対応ですが、マスク着用の今後の指導についてといふところの部分で、6月の時点ですので、まだ重要な事案として議員さんたちにはこの部分でお話がこちらのほうに、どうするんだといふお話が出たところがございます。

それから、学校給食については、食材について今後どんな形で食材を考えていくのかといふところについての質問等がありましたといふことで、校長先生方には議会のお話を差し上げたところです。

次の項目は、安心メールについてのことです。安心メール、これまでそれぞれ本当に下位委員にも大分ご協力を頂きながら、現在も安心メールを使っています。それを今後どんな形にしていくのかといふところを、現在検討している最中だといふところを校長先生方にはお話をしたところです。

それから、次はですね、これは個人名が出ますが、システム思考教育家でいらっしゃいます福谷彰鴻さん。この方は教育の中での、アメリカのですね、ピーター・センゲという、教育者でありながら、教育の組織論を考えてられる方ですけども、この方の愛弟子の方なんです。この方一回、この前ちょっといろいろと関係がありまして、福谷さん自身が私のところにおいでになりまして、鎌倉にお住まいなので、非常に近いということもあるんですけども、葉山の今後の様々な教育のところにも、協力をしていきたいといふお話がございました。自然を含めて、いろんな形の中でシステムをどう考えていくかといふことを広く考えられている方で、非常にお若い方ですけども、今後ご協力を頂いたり、いろんなことが出てくる方なので、名前を覚えておいてくださいねといふお話を差し上げました。

それから、プログラミング教育について、小学校のほうで、本来はもう既にロボット系のプログラミングをする予定だったんです。ところがですね、その資本を持っている会社さんが、中国が資本を持っている会社で、日本法人がこの世の中の様々な関係

の中で撤退をするということが急遽決まってしまったそうなので、その企業と葉山が研究をしながら進めようと言っていたことが、一旦うまくいかなくなりました。よって、今現在違うところと話をしながら、プログラミング教育、特に小学校の中での導入をどうしていくかを今後考えさせていただければというふうに思っています。もうめどはついておりますので、恐らく秋口にはどことどんな形でやるかということもお話ができるかと思っておりますので、そんなこともお話をしました。

それからですね、葉山中学校のご卒業で、濱名課長とかもよく存じていらっしゃるということだとか、それから、教育総務課の山口さんとかも同級生だったりする、内田沙希さんという方がいらっしゃって、その方は葉山中卒業した後に七里ガ浜高校を卒業された後、ハワイのほうに行かれて、ホクレア号という、スタークルーズと言われていますけれども、一切近代的な航海術を使わないヨット。ハワイの辺りのところ、ミクロネシア等々をずっと航海をするということを毎年しっかりやられているという、ある意味ではSDGs系の方ですが、その方が7月のおしまいに、どうも戻ってこられますという話があって、どこかで話してもらいたいよねという話をしているところなんです。ちなみに、この内田沙希さんは学校教育課長の教え子でもあります、南郷中の校長の教え子でもあるんだそうです。ですので、どこかのところで少しね、せっかく葉山に戻ってくるときがあるならば、子どもたちに何か話をしてもらおうよという話を少し考えている最中だということなんです。

それから、続きましては教員の話ですが、定年延長制がどうも今年度中に法制化がされて、動き出すよというところがありますので、これについても校長先生方に、該当の方々はどう延長されていくのか、それがどういう形になっていくのかがもう少したつと明確になりますのでというお話を差し上げたところです。

それから、もう既に委員の方々ご承知のとおりで、教員免許更新制は7月1日をもって廃止されています。したがって、これまで10年に一度、教員が免許更新するために大学等で30単位を取得しながら、そこで更新をしていったものが、これが完全に廃止がされました。ですので、これから先は、では教員の、いわゆる資質を向上させたり、維持させていくためにどうしていくのかということについての話がこれから出てまいります。まだ明確なものは出てまいっておりませんが、各都道府県の教育委員会と、当然葉山町の教育委員会にもこういう形でクオリティーを担保なさよという話がこれから出てくることになると思いますので、これも頭の中に入れておいてくださいねというところをお話をしました。

特に校長先生たちにとって大変なのは、一人一人の研修履歴、研修をした履歴を全て理解をした上で、各先生方とそれを基に、これまでの物の考え方の面談だとか、今後どんな形で研修を自分が受けていく気があるのかという面談をしてくださいねという話を文科大臣が申していますので、どんな形でこれがシステム化されてくるのかということはまだ分かっていませんが、やるべきことはそういうことで、校長先生方の

把握しなければならないことが多くなっているということは理解をしてくださいねというお話はもう既に差し上げたところです。

定例の校長会議については以上でございます。

それから、さらにですね、同日の午後3時から、三浦半島地区の教育長協議会が、油壺にある東京大学臨海実験所の2階の会議室で開催されました。対面は3年ぶりだそうです。今回の主催は三浦市でありまして、横須賀市、逗子市、葉山町、三浦市、この4町…ごめんなさい。3市1町ですか、のところの自治体の教育長が協議を行う会議ですけども、各課長さんも同行頂いた上でですね、話を少しさせていただいたということです。協議についての今回のところのメインテーマは、働き方改革についての各自治体での取組状況でございました。したがって、各町村でどんなことをやってきて、実態、それから効果は出ているのかということについて少しずつお話をしたところです。少しその中の絡みにもなるんでしょうけれども、横須賀市の教育長さんのほうからですかね、葉山は既に少しずつ始めていますが、プールの老朽化と、プールを今後どんな形で授業をしていくんだという話をちょっとさせていたんですね。逗子はどうするんですかみたいな話もありまして、逗子と葉山は近いですから、民間のプール等を使うについても競合してしまったりすると困るなというところも、実態はあったりもしますので、そこは恐らく教育総務課のほうで既にある程度のところで詰めてもらっていると思いますが、そんな話がありました。

次年度はですね、3年間対面やってなかったんですが、葉山町が主催の町になってしまいますので、どうも3年前にやっぱり葉山が…4年前になるんですかね、葉山が主催でやったときに、皆さん覚えてられるのは、対面でやったのはそのときだけなんですよ。ですから、ずっとその後は書面でした。なので、皆さんおっしゃってたのは、葉山でやったときはしおさい公園か何かで集まってやって、その後がよかったよねという話をさんざんされておられましたですね。そんなこともございました。来年どんな形でできるかというのは分からないですけども、コロナが収束をして、皆さんで対面ができるということがあるといいなというお話もさせていただいたところです。

それでは、私のところから最後になりますかね、7月の8日(金曜日)に、小中一貫教育推進会議を開催をさせていただきました。

7月8日のアジェンダは基本的に3点です。1つ目、第1回はやま科構想研究会の報告、総合的な学習の時間に関する振り返りについて、これが1つ目。2つ目は、学校評議員会、学校運営協議会での取組について。3つ目は、関わる場所とその他ということです。

まず、(1)はやま科構想研究会、これは各学校の教頭先生や教員で組織されていますけれども、はやま科のカリキュラムをどのようにつくっていけばいいかを考えているところです。総合的な学習をどのように実践してきているのかというのを、じゃあ、見える化してみようかということで、見える化のためのシートを作ってください

たところがあります。これをですね、各学校の中でみんなで考えてみて、そして埋められるところは埋めてみながら、自分たちがやってきたことは何だったんだろう、だから今後どう進めていけばいいんだろうということに進めるといいねというところのシートを作成をしたので、ぜひやってみてくださいねというお話を教育総務課長のほうからも差し上げたところです。A3判ですけれども、比較的よく練られたシートで、自分たちで学校の中で何をやったのか、1年生から順番にどういうふうになっているのかということ、空欄があったりしながら、当然お題目はありますので、葉山はどうするんだというお題目から順番に下ろしてって、最後は自分たちで何をやったのかなということ埋めていく。それを基にして新しい総合的な学習の時間というものをカリキュラミングをしていきたいと思いますというところのシートです。これはどうかというお話を差し上げたところ、各校長先生方からは、それを作ることにしては別に特に問題ないということですので。

もし補足があれば、後で虫賀課長のほうからでもお話を頂ければと思いますが。上のほうに物の考え方が載っていて、現実的にシートとして令和4年度一体全体何をやったんだろうというのをこの中にちょっとずつ埋めていってみようねという、そういう話です。やっぱりこれ新しいものを作るときに必要なのは、頭の中だけで勝手に考えていてもなかなか話がうまくいかないということがありまして、自分たちがやってきたことというのを文字化してみて、実態のところの評価をした上で、一番下にもいろんな項目がありますが、自分たちで自己評価をしっかりとしながら、新しいカリキュラミングをしていこうねというところの仮シートだと思っていただければありがたいと思います。こんな話をさせていただきました。

各校長先生方の意見としてはどうだったかということですが、合同の学校運営協議会の中では、委員さんたちの中からは21世紀型スキルの育成についても共感をしているという意見が出たりとか、それから、ICTが全児童・生徒に導入されたので、次の段階でPBL、つまり、プロジェクト・ベースド・ラーニングのほうに移行してくれるといいと考えているというような意見が出ましたよというお話を伺ったりとかですね、これを使っていくにも、最終的には自分たちの現実を見ながら、どうしていくのかについてのところでの最終的な部分での一定評価がもらえるスーパーバイザーみたいな方が、客観的に指導・助言をしてくれると非常にありがたいというお話も併せて出ておりました。

私からはですね、これまでの、先ほど申したとおりで、ティーチング型の授業からコーチング型、最終的にはですね、フォロワーシップ型、もつというならばファシリテーター型に教員の役目は変化しなければならないということをお話をしております。

アジェンダの2つ目です。2つ目につきましては、これ学校評議員会、学校運営協議会での取組という内容ですが、これについてはですね、9年間の学びの継続性を見据えて、小・中合同の学校運営協議会を設置をどうするのかについては、おおむね来

年度ぐらいのところの、どの学校でも設置をするのはいいんじゃないのというところでの話を校長先生方がしていただいたというところがありました。各学校ごとの個別の課題はしっかりと認識をしながら、目標は先ほど申したとおり、来年の4月にコミュニティ・スクールを全校設置という形で動ければと思っております。ただし、校長先生方の一番のお悩みは人選です。人をどういうふうに変定をして、どんな形でのコミュニティ・スクールをつくっていくのかというの、完成型はもしかするとすぐには難しいかもしれないというふうにお考えの校長先生たちもいらっしゃいます。ただ、それでもコミュニティ・スクールは一旦つくってみようというところの前向きなご意見でございましたので、これは非常にいい形じゃないかなと思っています。特に葉山中学校、葉山小学校、一色、上山口についてのところが今後どうなっていくのかというところが、校長先生方にとっても地域の方々にとっても、ある面では着目すべきところだと思いますので、コミスクをしながら、地域の人たちの意見を聞けるというところに持っていくのはいいことだと思いますので、こんな形の話がされたというところでございます。

中1ギャップの解消のための仕組みづくりというのは、カリキュラムの中で当然必要でありますよということ、それから、例えば9年間で4・3・2と小さなタームであるとかフェーズにして、目標設定をすることが必要だということ（3）の項目の中で少しお話をしました。つまり、9年間ですから、それがただ単に6・3ではない。教育課程の中で、その中で学校としてどうしていくかは議論が当然必要ですが、先ほど申したとおり、タームを変えてやることということの中で、子どもたちの育成を教員としてしっかりとシステム化しながら考えていくということも必要じゃないのという話も差し上げておいたところです。

長くなりました。私のほうからの報告は以上でございます。

ご質疑等あればよろしくお願ひしたいと思います。鈴木委員、お願いします。

鈴木委員) 教育長のお話の中にちょっと出てたんだけど、この前もどこかの学校で問題になってたんだけど、救急の場合の救急車の手配というのを躊躇なくやってほしい。これからいろんな病気、熱中症だけじゃなくて、コロナの問題もある。学校側、校長が単独で判断するというのはやめさせなさいというのが一つ。救急車を呼んで、一旦専門のところへ持って行く。どこかの学校で、連れて行かれて骨折だったって、そんなばかな話が、教師じゃなくて、人間として悪いんじゃないと思うんだけど、そういうことのないように。濱名課長のほうから徹底してほしいなど。仮に傷、手首をひねった、打ったというときであっても、救急車で行くんだというぐらいの気持ち。もちろん判断は難しいところもあるんだろうけど、医者に診せるということは絶対。後になって何か問題があったときの処理ができなくなるから。ですから、救急車を呼ぶのを躊躇しないことを徹底してほしいと。

それからもう一つ、ストレスチェックを実施してるって書いてあるよね、これ。どの

ぐらゐの割合でやってるの、教師。

教 育 長) すみません、じゃあ、学校教育課長、2点ありましたので。

学校教育課長) 救急車の手配についてはおっしゃるとおりでございますので、再度また学校のほうに周知したいと思います。

ストレスチェックは1回目が終わりました、小学校が平均82%、中学校が77%でした。昨年度より実施率としては高くなっているかと思ひます。100%に近づけられるように、第2回のほうも併せて周知を図ってまいりたいと思ひます。

鈴木委員) これは、100%やらなきゃいけない、100にしなきゃ駄目というぐらゐの気持ちで。

それから、学校視察に行ったとき見ても、やはり心の問題があつて休んでる先生いらつしたよね。だから、教員といえども、当然我々企業と一緒に、かなりストレスがかかっている。今の人は非常にナイーブで言葉に出して発散できないので、ストレスチェックはやれば必ず結果が出る。うちの社員も含めて、大手企業のストレスチェックしてるのを見てるけど、6割ぐらゐ引つかかる。だから、このストレスチェックは、何%になったからいいんだということじゃなくて、100を目指してほしい。できるだけ時間を取って、最終的には自分のためだから。早く見つければ対応が楽。そのことをもう一度教員に徹底してほしいと思つてるんで、よろしくお願ひいたします。

学校教育課長) 承知いたしました。

教 育 長) ぜひパーセンテージは100%を常に目指して、よろしくお願ひしたいと思います。

ほかにご質疑等ございますでしょうか。小峰委員、お願ひいたします。

小峰委員) 校長会の資料の中に載っていることについてお尋ねしたいんですけども、ふくぶんファミリーシネマについてという項目が上がってたんですけど、ふくぶんのファミリーシネマって何でしょうか。

教 育 長) これはどなたが。その他の項目のところのふくぶんファミリーシネマについてという、その他のところの項目がある。学校教育課長、お願ひします。

学校教育課長) すみません、各学校にご案内したチラシで、私の手元にはございませんので、後ほどまたお伝えさせていただきます。

教 育 長) 多分あれですよ、広報ですよ。その他で入っている。ここでそういうことがあるのでということで…。

学校教育課長) お知らせのレベルのものなので、後ほどご説明させていただきます。

教 育 長) じゃあ、後ほどすみません、確認をさせていただきたいと思ひます。

ほかにございますでしょうか。下位委員、お願ひいたします。

下位委員) 今、さらにコロナが学校でも多くなつてきている状況ではありますが、学校でのマスク着用のルールについては、先月の教育委員会で質問させていただいたんですけども、それと変わりなしという理解でよろしいでしょうか。

学校教育課長) そのとおりでございます。

下位委員) ありがとうございます。

教 育 長) そのほかいかがでしょうか。よろしいですか。

ご質疑がなければ、質疑を終結します。

以上で教育長の報告事項については、これをもって終了といたします。

(教育委員活動報告)

教 育 長) 日程第3「教育委員活動報告」についてを議題といたします。

6月28日から7月12日の間に行われました学校視察について、各委員より総括としてご報告をお願いできればというふうに思っております。

では、順番は下位委員からでよろしいでしょうか。では、下位委員よろしくお願いたします。

下 位 委 員) 小学校4校、中学校1校を訪問させていただきました。まず全ての学校で共通していたこととして、落ち着いて学習できる環境であること、あと子どもたちがきちんと挨拶ができていたことを挙げさせていただきます。先生方と子どもたちの信頼関係ができているからこそなんだと思うんですが、もちろん個別にはうまくいっていないこともあるんだと思いますが、全体的には非常にいい雰囲気でした。

授業については専門ではありませんが、幾つか気になった点がありましたので、ご報告させていただきます。

主体的・対話的で深い学びという指針があると思いますが、具体的に実践できていると感じた授業を見かけることが、正直あまりなかったかなと感じました。例えば、あらかじめ決まっている答えに導くような授業がありましたし、先生が主導で子どもたちに考えさせるいとまを与えないような授業もお見かけしたような気がしております。授業の在り方はこれから変化していく過渡期なんだとは思いますが、知識詰め込み型よりも臨機応変に問題を解決する力や、新しいアイデアを出す創造力をつけていくような授業というのが増えていくことを期待しております。先ほど教育長のお話にあったとおりでございます。

2年目となりますクロームブックでございますが、昨年に比べて、見た目では圧倒的に利用しているシーンが少なかったように感じました。必要に応じて使うものですので、無理に使う必要は全くありませんが、拝見した中にはクロームブックを利用したほうが効率がいいと思う授業の場面もございました。保管庫から取り出すのが面倒だったりとか、Wi-Fiが繋がらないとかという不安があったりするのかもしれませんが、できれば学校にいる間はもう机に出っ放しにしておくぐらいの活用のシーンはあるんじゃないかと思えます。

今年も、クロームブックを利用した授業の研究があると思いますが、活用方法のヒントや苦手な教員へのサポートを充実させていく年度になるといいんじゃないかなと思えます。もし苦手意識のある先生がいらっしゃるようでしたら、ICT支援員さんもいますので、一緒に授業に入ってもらいなりしていただいで、定期的に活用できる

ようになっていただきたいなというふうに思います。

葉山小学校を訪問させていただいた際に、葉山小学校に設置されていることばきこえの教室のほうも併せて訪問をさせていただきました。ここでは、今、職員の皆さんが困っている問題についても伺い、考えさせる点もありました。設備の広さや職員の数など、すぐにでも検討すべき点があるんじゃないかなというふうに思います。

これとはまた別の話なんですけど、保護者の方から、ことばきこえの教室に関する情報が非常に少ないという意見を伺うことが多いです。町のホームページも調べてみたんですけども、葉山小学校の中にパンフレットへのリンクが1枚だけとか、子ども育成課の中に発達につまずきがある人への支援というページがあるんですけども、その表の中に1行入っているだけとか、その程度でございました。恐らく、一般の方は、例えば「葉山町 支援教育」といったキーワードでグーグルとかで検索ををすると思うんですけども、それをしてもほぼ出てこない状況なんですね。我々はもちろんそうですし、学校の先生方も知っているからこそ簡単に検索できると思っていますけれど、特に未就学で、これから就学するようなご家庭は探すことがちょっと困難なんじゃないかなと思います。「ことばきこえの教室」というような検索すればすぐに出てくるんですけども、その名称を知らない方は探すことができないという状況だと思いますので、支援教育に力を入れている葉山町ですので、今後の見直しもお願いしたいなと思いました。ヤシの実のほうも同じような状況かと思います。

最後になりますが、毎年上山口小学校を視察させていただくのを楽しみにしているんですけど、なぜか独特の、ゆっくりした時間が流れているように感じる場所があります。休み時間に虫取り網、かごを持って出て行く子どもたちがいたりとか、学校で飼っているこんなちっちゃな蛇を手に乗けて、ほら、おじさん、見てごらんって見せてくれる子がいたりしますので、やっぱりほかの学校とはひと味違った雰囲気なかなと思います。私自身も上山口小学校出身の友人がたくさんいますが、大人になってしまうとそんな雰囲気はなくなってしまうので、非常にいい学校だなというふうに思いました。

以上、学校視察について報告をさせていただきました。

教 育 長) ありがとうございます。続きまして、清水委員ですか。お願いいたします。

清 水 委 員) 4月に就任いたしまして、初めての学校視察をさせていただき、やはり資料を拝見するよりも、実際に回れたことはすごく意義が大きかったなと思います。3年に及ぶコロナ禍という異常事態において、先生方が感染拡大フェーズによって、苦心しながら運営されてきたということがよく分かりました。本当に大変なときを乗り越えていらっしゃると思います。体育館には暑さ対策の大型の扇風機が運輸され、活用がされている学校と、音がうるさいので止めてしまっているところもありました。これからますます暑くなり、暑さ対策が非常に重要と教育長もおっしゃってましたが、設備を活用し、お子さんの命や健康、学習を守ることが第一と改めて思います。

学校視察では全児童に配布されたタブレットを活用したICT授業がどのように実施されているのかに注目いたしました。一色小学校は全体的に非常に活用されている印象を受けました。葉山町全体では学校やクラスにより活用に差があるように思います。活用が上手な先生を中心にCT研修会をやっていますが、同じ葉山町の中で格差が出ないようにと思います。また基本操作から一歩先の次のフェーズの使い方に進んでいただきたいです。現状は、一律にきれいな資料が作れる子を育てているように見受けられる授業が多いです。キーボードがうまくて、見やすいノートをまとめなさいということではなく、例えば打つのが苦手な子は、音声入力にするなど、お子様の個性に合わせたな指導にこそタブレットを活用していただきたいと思います。

これは教育長も下位委員もおっしゃっていることですので、どうやったら一歩進んだ次のフェーズにの授業のあり方を研究していただきたいと思いました。

また、授業に関しましては、全国的に先生の数が少ないという中で、TT制（Team Teaching）を採用してらっしゃるクラスもありました。こちらも、TT制が機能している教室とそうでないところがありました。活用がもっと積極的に行われ、適切な運営が行われることを期待します。

図書室について、時間が足りなく実際に見れなかったところもあるんですけども、蔵書の多くが古いところですか、全てをシステム化するのは予算など難しいと思いますが、個人情報である図書カードが誰でも見られるところに置かれてることなど非常に気になりました。葉山小学校は読み聞かせで表彰もされていらっしゃるんですけど、全体として葉山町立図書館と連携しながら、もう少し図書教育に力を入れてもいいのではないかなというふうに思います。まだ司書の先生方とお話ができておらず、図書室を見ただけの感想でございますけれども、積極的にお願いしたいと思います。

そして、先生方のお仕事が非常に多岐に渡り、ご負担が多いことを実感しました。授業、保護者の対応、部活、プールを掃除など枚挙にいとまがありません。今後保護者の方のニーズも多様化しています。昔は自分の子と先生の関係が中心でしたが、現在はLINEなどで多くの情報が保護者同士で共有される中、学校、先生と児童、保護者の方と信頼を構築できるかが今後の課題ではないでしょうか。PTA活動に関しては一色小学校が大改革をされたということで、その辺含めて保護者方との新しい関係構築が重要と思いました。

また、三十何年ぶりに給食を頂き、温かいものが出てくる、皆さんで同じ物を頂く、栄養がきちんと考えられているというのは、非常に良い制度だと改めて感じました。中学生の伸び盛りのお子さんたちにもそういう給食が提供されるというのは、素晴らしいことだなというふうに思いました。

最後に下位委員もご指摘されたことばときこえの教室ですね。私もたんぼぼ教室と混同していました。広報の重要性はもちろんのこと、スペース・人手不足の対応をお願いいたします。必要とされる児童が増え続ける中、今すぐにでも手当てをしていか

ないといけないことだというふうに認識いたしました。

全体としては以上です。実際に行ったことによって分かることがたくさんありましたので、今後の教育委員の活動に、私個人としても活用させていただきたいなと思っております。

教 育 長) ありがとうございます。では、続いて、鈴木委員、お願いいたします。

鈴 木 委 員) 私はですね、下位委員が言われたように、全体的に授業は落ち着いて、生徒がちゃんと目で教師を追うといいますか、みんなで聞いているという感じがあって、非常に落ち着いているなど。このままずっとこういうパターンで行ってくれればと思いました。

ただ、リモートのところを見てるとね、やはりリモートは難しいなというのは感じる。ある程度分かる子はね、簡単に聞いて一緒にできてるみたいだけど。どうしても見ないとね、声聞こえないんですね。やっぱり手で何かやってたり、下を向いている子が3分の1ぐらいいたんじゃないかなと思うんだけどね。だから、ICTも含めて、教育は難しいなというふうにちょっと思った。

幾つか気になった点は、葉中、理科の実験があったんだけど、あんな授業をしてるようではね、教師失格。ガスを使ってたんだけど、火の扱いであんなことをしてたら怪我する。これは校長、教頭に厳しく言ったけど、もうあれはもう本当に問題外。

それからもう一つは、葉小のプール。ちょっと見させてもらったんだけど、結構日が当たっててね、そしたらね、床面といいますかね、コンクリートの面が熱いので驚いた。生徒たちが飛び跳ねてたんで、何してんのかなと思って手で触ってみたら、結構熱くてね、担当の先生が、水をまいてたんだけど、もう水まいてもすぐ温まっちゃうというね。プール授業させるというのは非常に大変なことだなというのは、あんなふうになるとはちょっと思ってなかったの、先生は大変だなということで、感謝を申し上げました。

それから、全体的に、発達障害の関係の方が随分増えてきてね、指導員の先生には大変ありがたいなというふうに思った。教師の皆さんも大変だろうけれども、これからもご苦労かけるなということをちょっと感じました。

それから、長柄で、教頭になった人の授業聞いたことがないんで、見に行った。なぜ、この教頭の授業が上手なのか。ほかの教員と比べてどこが優れてて、どこがというのがちょっと私には分からなかったんだけど、非常によかったね。子どもたちへの対応の仕方というか、目線の持って行き方、身ぶり手ぶりの動き方、しゃべるタイミング等参考になった。さすがだなと思いました。

全体的にそんなような感じで、これからの教員はいろんな意味で大変なんだろうということは常に感じて頭の下がる思いなんで、ぜひ頑張ってくださいしかないんですが、よろしくお願いいたします。以上です。

教 育 長) ありがとうございます。では、最後に小峰委員、お願いします。

小 峰 委 員) もう皆さんがお話しになったことを少しずつ拾いながら、私の意見を言わせていた

だくことになると思います。

まず自分の反省として、去年、おとし、学校視察の折にどのようなこととお話ししてきたか、メモを見てみましたら、いつも変わらないことばかり言っているなどということを感じました。その点は自分がまだ勉強をちゃんとしてないで、先生方にお話しするというか、校長先生にお伝えしていることを反省するとともに、内容や言葉をもっと工夫してお話しできるようにしなければいけないなどということを改めて思いました。

私の感じたところは、もう教育長が一番最初にお話しされたことに重なると思うんですけども、やっぱりどこの学校でも、勉強をさせているというか、学ばせていることについては、その点だけで見れば子どもともいい関係ができて、十分できているなど思いましたけれども、強いて言うなら、学ばせ方はまだ先生方は子どもたちに身につけさせていないなどということを改めて感じた次第です。

今、鈴木委員が長谷川教頭先生の授業のすばらしさをおっしゃったんですけども、いい授業とはどこが違うかという、子どもの言葉をどれだけ鋭く拾えるかということだと思えますね。何か先生方は効率的にというか、自分の今日の1時間で達成したいところまで行きたいから、子どもと1対1でしか話をしていない。自分の進め方にとってプラスになる子どもの言葉を上手に拾い上げて、それで授業を進めていく。そうではなくて、教育長もおっしゃっていたけど、失敗してれば、間違っている子どもの中に新しい学びがあるはずなので、本当に子どもの言葉を鋭く拾うということができるようになる。それから、子どもの感性を信じるということですよ。子ども同士の話し合いとか、子どもが言ったことについて、ほかの子どもはどういう反応を示すかということをやはり見取って授業を進めていく、そういう授業になっていただきたい。長谷川先生はその辺が大変ご経験もあるし、長谷川先生ご自身の感性もあるんだと思えますけど、その辺りが大変上手にできていたので、誰が見ても、ああ、いい授業だな、子どもが活躍しているな、子どもが自分で学ぼうとしているなどということが受け止められる授業だったと思います。長柄小学校は今回の最後の訪問だったのですが、私の根底にはどの授業もそうであることを期待していたので、各学校でもそうした趣旨で、お話をさせていただきました。

それから、さっき下位委員がおっしゃったように、私も葉山小学校のことばときこえの通級教室のことは大変気になっていましたし、私も去年インターネット、葉山の中ではどうやって検索できるのかなということも見ました。でも、下位委員がおっしゃったとおりで、葉山小学校の中にある施設だということを知らないとなかなかたどり着けないということは、やはり改善の余地があることだなどと思いました。

私がおりました横浜市では、言語、難聴、弱視、それから情緒障害、それぞれに対する通級指導がありました。情緒障害児の通級教室は、現在は多分まなびの支援教室という名前になっているとは思いますが。ことばときこえの通級教室で指導してる先生

方のご苦勞などを聞いてみると、今、葉山でもその辺り、学びをどう支援するか、そのための通級教室、いわゆる個別支援級ではなくて、通常級にしながら、発達の特性を抱えている子に対してどういう支援ができるか、それを通級を利用してできるようにしていく場が必要とされていることを改めて感じました。

それから、教育長と今、鈴木委員も小学校の先生は本当に大変だなということをおっしゃっていました。なかなか教材研究を進められないとか、手いっぱいできないということもおっしゃっていましたが、教材研究の一つの方法は先生方がほかの教室をどう見るかということがあるかと思えます。例えば廊下の掲示物を見て、自分ができなかったけれど、このクラスはこうしているとか、学年が上ると、あ、ここに結びつくのかとかということ、教室を見て学ぶことがたくさんあると思うんですね。だから、板書一つでもちょっとのぞいて見てみるとか、ぜひ先生方にほかの先生がやっている授業を、授業を直接見なくても、足跡として残っているものを見て、学ぶ機会を逃さないでほしい。そういう意味では小学校はオープンになっているところはたくさんあるので、ぜひそれを見ながら学んでいくことも一つの方法とさせていただきたい。

多分校長先生方も、例えば経験の浅い先生を1組から3組まであるとき、どこの教室に、何組の担任にするかということも考えて教室を決めると思うんですね。自分が廊下に出たときにすぐ目につく、経験のある先生の教室が目に入るような教室配置をするということを考えておられると思うので、ぜひ先生方には、目の前に広がっている学びの場を活用していただきたいなということも感じました。

一つ私が気になったのは、大変細かいことなんですが、教室を離れている教室の、照明がつけっ放しになっている教室がたくさんありました。やはり子どもたちに、今これだけ電力の節減と言われているときですし、そうじゃなくても、自分たちが教室を出るときに電気を消そうねというようなことは一つのルールにしていくことも大事ですし、子どもたちって、学校でそう言われていると家でも結構気にして、身につけていくことだと思うんですね。ですから、その辺が学校でどういう声かけをするか、そういうような一つ一つ、自分たちが生活する場での注意点みたいなものも細かく声かけすることも必要かなというふうに思いました。

清水委員がおっしゃったように、学校に行くといろんなことが分かってきて、私たちがこういう場だけで話をしていることではなくて、いかに先生方、学校に寄り添って、自分たちの仕事をしていくことができるかなということを考える機会にもなりましたので、学校視察、大変有意義に過ごさせていただきました。ありがとうございました。

教 育 長) ありがとうございました。4名からお話がありましたが、各委員さんのところでまだ何かご意見なり、さらに追加というものがあれば。鈴木委員、どうぞ。

鈴 木 委 員) 下位委員とか小峰委員が言ったように、ことばの教室のやつのホームページの調べ

るの、そんな難しいものじゃないんでしょう。あれやるとしたら、虫賀のところがやるの。

教育総務課長) それぞれの課で管理してるので、学校教育課になりますか。

学校教育課長) うちの課になるとしますので、ご指摘のところは掲載方法も含めて、もう少し周知が図られるような、検索しやすい手法を少し検討します。

鈴木委員) 難しい話かどうか分からないんだけど、9月ぐらいから最低でもできるようにしてよ。これからはそういうことを紹介してもらいたいだろうけど、私はもう長いから、そのことばの教室があるのは当然知ってて、それが葉山小だということも知ってるわけだけど、確かにお2人が言われたように、一般の人が見るときに、すっと分かる。発達障害で悩んでいる方、それから、極端に言ったら、いろんなパターンの方がヤングケアラーの問題も含めて相談したい人がいるんだろうと思う。だから、子どもの関係なんかは、ここにすぐ分かるようなね。忙しいだろうけど、せめて9月ぐらいからは見やすいような状況に変えてください。

教 育 長) ホームページについては、決して難しい話ではないので、表にどう出すかというところだけなんです。各委員さんからお話があったところを聞いている中のところから考えていくと、当然保護者の方々、いわゆる就学前の方々にとってみると、葉山はこういうのをやってるんだというのがぼんと出てくると非常にいいことなんです。従前お話ししたとおり、支援教育全体を今年実は見直しをしている最中の経過がある中で、ことばきこえの教室の先生たちもおっしゃっていたとおりで、どういうふうな児童・生徒さんたちを、どんな形でことばきこえの教室のところに持って行って、そこでは一体何ができるのかというところの、一旦整理をしないと、恐らくは、たくさんこれですらに人が来た段階では、教育の中身が非常に浅薄になっていく可能性もあるところも事実ですので。広報は当然すべきだと思いますが、中身についてのところは今年度いっぱいしっかり練らせていただいて、町としてもどういうふうに支援教育をしていくのか。いわゆる、早い話が、その子たちの、特に保護者の方の不安がどのレベルの何なのかということも、うまく聞き取りながら持ってあげるということもまた支援の一つの在り方だと思っていますので、ここについては広報の在り方と中身についてともに今年度中、広報については早いうちに、中身については今年度中にまたお知らせをすることになると思いますので、ご理解を頂けるとありがたいと思います。

ほかに何か、清水委員、どうぞ。

清水委員) すみません、言い忘れてしまったのでよろしいですか。設備について、長柄小学校の体育館のじゅうたんが非常に汚く、ハウスダスト、特に喘息のお子さんにもよくないと思います。衛生上もよくないので、町のほうで撤去していただきたいというのを言わなくてはとっておきまして、失念しておりましたので、付け加えさせていただきます。

教 育 長) 分かりました。これは体育館に入ったところのカーペットですとか、それからさらに言うと、体育館入って一番奥の、裏にある2階のところの、もともとは防災備品を置くべきところだというお話でしたが、かつてそこの中には机と椅子が山ほどあったのを、ようやく整理した後のところですけども、やっぱり下がカーペット生地で、非常に、どちらかという不衛生である状態のままになっているというところで、これは校長先生もお困りだったようですから、今後どうするかはできるだけ早めに整理をしたいというふうに考えております。

清 水 委 員) お願いいたします。

教 育 長) では、全体的なところで、各課の課長のほうから何か、お話をしていただいた部分の中で、これについてはこうですよというところがあればお話を頂きたいんですが、順番に聞いていきましょか。生涯学習課長、お願いします。

生涯学習課長) 先ほど清水委員のほうからご指摘のありました学校図書館のデータベース化の遅れというところは、実は今、町のほうでも第三次子ども読書推進計画というのを策定中の中で、やはりデータベース化が非常に遅れているというところで、その辺のところ。

あと、町立図書館との連携というところをあえて見直さなさいというところで、実はこれ、教育長のほうからも言われていた話で、その辺については対応していこうというふうに考えております。

清 水 委 員) よろしくお願いいたします。

教 育 長) 何かありますか。

図 書 館 長) 今、中川課長が言われたとおり、その方向で第三次計画を策定中です。

教 育 長) これについては、やはり限りある予算の中で、学校の蔵書をね、今後どうしていくのかという話を、ただ単にお金をどんどんどんどん増やすわけにもまいらん。さらに言うならば、寄贈してもらいたいという話があつとしても、寄贈って実はなかなか難しくくてですね、寄贈される方にとってみれば、この本はすばらしい本だというふうにお持ちになるんです。ところが、町の図書館であれ、学校図書館であれ、実は頂いたんだけど、頂いたからにはどこかで配架しなきゃならないんだけど、実はこれちょっとできないでしょというのが結構あつたりするんですね。ですので、なかなか難しいところもあるんで、じゃあ、一番最初にやるべきことは何かというと、町立の図書館と各学校の図書室をどうネットワーク化して、本がどこにあるのかが明確にすぐ分かつたりとかしていきべきだろうというところを模索をするということを考えています。ただ、これも予算が当然必要ですし、清水委員のご指摘のとおり、現在のカード的な部分のところでの蔵書管理をしているものをデータベースに登録するためには、一旦全ての棚ざらえが必要になってきます。この辺の関係もありますので、一足飛びにすぐにはならないんですが、ソフトウェアは当たり前のようにどこにでも存在しているものですので、それをどんな形で、どういう手順をもってつくっていくのか、

それから、町の図書館自体がそこをどんな形でうまくリードしていくのというところも整理をしながら、ちょっと順序立ててやらせていただくことになろうかと思imasuので、申し訳ありませんけど、よろしく願いいたします。

清水委員) お願いいたします。

教育長) 生涯学習課、よろしいですか。

学校教育課、何かお答えすることありますか。どうぞ。

学校教育課長) 先ほど出ましたことばきこえの教室のホームページの掲載についてはすぐに着手させていただきます。

あと、私も同行させていただいて、先ほど小峰委員から冒頭お話があった、以前と変わらないことをちょっと言ってるというような振り返りのお言葉がありましたけれども、逆に言うと、それができてないということが言えるかなというふうに思imasu。ですので、下位委員もおっしゃっていた、先生方が主体的・対話的で深い学びの実践がどれだけできているのかということと言うと、まだまだそれぞれの学校ができてない現状があるというふうに私も認識をしております。ですので、各学校に訪問の際、それから研修の際、様々指導主事が学校に行って指導する場面もございますので、そういったところを先生方に何度も何度も伝えていく必要があるなということを再認識させていただきました。以上です。

教育長) 教育総務課長、何かございますか。どうぞ。

教育総務課長) 鈴木委員から葉山小学校のプールのご指摘頂きましたが、民間プールを実施していない4つのプールも老朽化著しいというところがありまして、来月、町のほうでサマーレビューというのがありますので、令和5年度以降ですね、中期的にその4つのプールどうするか、町と夏から検討したいと思imasu。年内には学校プールの中期的な見通しについてご報告できると思imasu。

教育長) ありがとうございます。私も一応教員なので、長谷川先生の授業は何がいいのかという話について少しだけお話をしておきますが、小峰先生が常に…常日頃おっしゃっている、黒板を見た瞬間に、今日は何をして、どんなことをやるのかというのが、長谷川さんの授業では明確に、行った瞬間に分かるんですよ。つまり、授業の目当てというものが非常に分かりやすく書いてあって、そこをね、今日は何をやるよということが子どもたちに分かりやすい言葉で、分かりやすく、視覚的にも聴覚的にも入る状況を彼女の授業はまずつくっているという、これ前提論なんですね。昨今の子たちは視覚優位の子もいますし、聴覚優位の子もいますから、両方をケアしてやるということを当たり前のようにやっていかなければいけないんですが、なかなかそこに全ての教員が気がついてない。本来当たり前やるべきなんですが、そこができ切れてないということがあるんだと思imasu。

それから、もう一つは、小峰先生もおっしゃいましたけども、子どもたちの興味があるので、そこで発言をする言葉というのをどう拾ってあげるかということがやっぱ

りお上手だと思いますね。ふざけているわけではないですけども、ほかの授業でもたくさんの子たちが手を挙げて「はい、はい、はい」とやっていることがあって、言葉に発してしまうことがあると、教員はどう考えるかという、それをラッキーと思って捨てる人間と、それから、ちょっと静かにしてという方向に行く人と両方いるんです。そこを、せっかく言葉を出してくれたことをきれいに拾いながら、それをもらって、さらに全体に前に出る、そこが1対1でやってないんですよ、長谷川先生は。通常の場合、誰かがぼんと手を挙げて、何か「何とか先生」って言うと、その子と始めちゃう人が多いんですね。そうすると、それはあくまでも1対1になってしまって、ほかの子たちは置いてきぼりになる。もっと言うと、そうやって声を上げて「はい、はい」ってやれば、聞いてくれるんだということがクラスの中のルールになってしまうことがあるんです。そうすると、みんなわいわいわいわ手を挙げて声を出せば先生は私のところに来てくれるという感覚をおのずから身につけてしまう。これは話が全く違う、どちらかという、方向性としてよくないわけですね。ですから、一回拾ったものは全体に投げて、「何々君こう言ってるよ、みんな分かってる。」という話を正確にしてやることということをやっぱりしっかりとやられているということだと思いますね。

主体的で深い学びになっていないということについては、やはりこれも小峰先生おっしゃっていたとおりで、ほかのクラスに、先生たちすごく真面目なので、1時間ずっと張り付いているような感じがします。クラスだけを見てるという感じがするんですが、冒頭で申したとおり、今日何やるよと言って、途中の段階で作業を明確にさせてるときには、巡回をするのは当たり前です。長谷川先生、巡回の仕方も非常に上手でした。きれいにトレースして、全体を回ります。ただそれだけではなくて、ほかの若い先生はその間は廊下に出ればいいんですよ、本来。廊下に出て、隣、何やっていると、見る時間、絶対にあるんです。でも、それをしないという感じが、どうも小学校は特に強いのかもしれないですね。

ですから、中学校のほうが本当は主体的で深い学びをやりづらいつてみんな思っているんですけど、今回見てきた、葉中とほかの小学校見ると、葉中の先生たちのほうが、鈴木委員に怒られた件もありますが、それはちょっと置いといていただいて、ほかの先生たちは非常にどちらかという、どうやったら子どもたち一人一人が向上していくかというのを理解しながらやってられる先生たちが中学校に多かったですね。小学校のほうが本来はいろんなことのアクションを起こしたり、いろんなことしやすいはずなんですけど、どちらかというコンパクトにまとまっている感があったので、そのところというのは、これから小学校の先生たちそれだけ真面目だということの、多分証拠だと思うんですよ。そこからもう一歩出ようかという話もこれからどう出てくるかで、葉山の問題も面白くなっていくというふうに思ってますし、小・中一貫をつくっていく中でそれも多分出てくるのかなというふうに思っておりますので、最

後に少し委員さんたちのお話を聞かせていただきながら、少しお話をさせていただきました。

下位委員どうぞ。

下位委員) 今、教育長のお話伺っていて思ったんですが、学校の先生方ってあまりチームプレーじゃなくて、どちらかというと単独プレーヤーばかりなのかなという感想があり、今おっしゃったように、例えば4年生に3人先生がいるのであれば、ほかの先生の授業を見てみるとかというのをあまりしているのは見たことがなくて、もちろん自分のクラスがあるので、授業をしながらは無理だとは思いますが、例えば高学年の理科の授業で、理科の専科の先生が教えてるときに違うクラスの授業を見てみるとか、そういうことをしてもいいんじゃないかと感じていたところです。

葉教研の授業研究を拝見させていただいて、研究や研修の内容を拝見させていただいたことがあります。他の先生の授業を見ることも、研修の時だけではなく、日々の中で取り入れていっていただけるといいのではないかなと思います。鈴木委員は経営者なのでお詳しいかと思いますが、企業であればあまり単独プレーということはなく、基本的には課や部署単位でみんなで協力して結果を出す世界だと思います。そういうところがあまり学校にはないような気がしたので、もしそういうことができるのであれば、ぜひ先生方にやっていただきたいなというふうに思った次第でございます。

教育長) ありがとうございます。教員はもともと昔から言われているとおり、ホームルーム王国という話がよく出ましたけれども、中学校はホームルーム王国はなかなかつくりづらいですけど、小学校は比較的そういう言葉で代表されることがあった時代がありました。今の若い先生たちはまさしく、下位委員が今言われたようなことを渴望してと思います。ただ、やっていいのか悪いのかの判断がまだできてない可能性があるんで、ここは校長先生たちが大きな声を出していただいて、ほかの授業を見に行こうよという話をどんどんしていただくことで多分変わっていくこともあるし、チームプレーって、チーム長柄、チーム葉小って言うけど、それは一体何がチームなのというところの部分のところをもっと根幹的にやっていくのは重要なことだと思うんです。ありがとうございます。

小峰委員、どうぞ。

小峰委員) 今、下位委員がおっしゃったようなことは、葉山…葉山ができにくいというよりも、学校の文化があるんでしょうけれども、まず私一つ考えるのは、研究授業をやってるんだけれども、学校内の研究テーマに対して授業を公開する人が学年に1人とか、ブロックに1人とか、いわゆるお互いの授業を見合う経験があまりないように思います。今年、葉山小学校が全員授業、専科の先生もなさるといようなことが学校要覧に書いてあったと思うんですけども、そこだと思うんですね。私は今まで経験してきた中では、校内研究は1人が年1回か2回の研究授業をしていました。そうすると、授業を見ていて、例えば算数の授業で、ちょっとあの子の考え方どうなのかな、気になる

ようなところを見ると、それが職員室の話題になるんですね。研究授業の後日でも、あの子、今日はどう考えていたって聞きたくなります。だから、そういう子どもの話が、授業を見ていることによって、割合自由になるというか、話題になる。そうすると、普段でもちょっと見に行く、のぞきに行くんですね。だから、それは学校の文化というか、その校内でつくっている雰囲気、いわゆるそういうことがフリーになってとか、子どもの授業中の考え方がほかの先生もちょっと気になって見に行くとかということができるようになったら、今、下位委員がおっしゃったように、すごくオープンになると思うんですね。外部に公開するがために研究授業ばかりやっている学校もあって、それはそれで弊害もあるんです。研究授業のための授業が主になってしまって、先生方も見せるための授業に一生懸命になって、その教科だけに時間をかけてしまいがちになるので、研究授業たくさんやればいいわけではないけれども、少なくとも年に1回は自分の授業を見てもらおう、そのための準備があって、学年で見合うとか、あるいはほかの先生に見てもらおうとかということがもっとオープンにできるとなると、何とかな、ほかの教室のことも気になると思うんですね。

教育長は今の若い人たちはチームワークで仕事することを望んでいるとおっしゃいましたが、私の経験では、若い人は反対に教えてもらうのを嫌がります。嫌いとか自分のやり方でやりたいのだと思います。私たちの若いときは、余計な話してしまいますけども、おせっかいな人がいて、ずかずかっ教室に入ってきて、あそこのものの置き方おかしいよとか、ここはもっとこうしなさいとか、掲示物もこれじゃあ意味がないから、もっとこっちはこういうもの、あっちにはこういうもの、前にはそういうもの置いちゃ駄目とかと指示する先輩がいたんです。でも今はそういうおせっかいを嫌がりますし、今の若い人たちは受け入れないでしょう。私が学校にいたのももう10年も前ですから、さらに状況が変わって今の若い人たちはもっと柔軟で、積極的に見てくださいって言うてるかもしれないけども。

何ていうかな、人の干渉を嫌がるというのはちょっと先生方にもあるかなとは思いますが、でも、少なくとも、学校の中で授業を見合うことが日常になれば、今、下位委員が心配されたようなことというのは、随分解消されるのかなと。私は、だから、葉山の先生方にも、自分の授業を公開することをためらわずにやっていただきたいと、常々思っています。そういう点では、葉山小学校が今年全員が授業公開をするということはとてもいいことだなというふうに思いました。

すみません、余計なことまで話してしまいました。

教 育 長) いや、とんでもないです。公開授業がちょっとしかないというのはやっぱり駄目なんですよ。コマを持つてるのは小学校も中学校も毎日保護者に全部公開すべきだと思ってるんです。研究授業と公開授業違うので、研究授業は特定の目的をもって授業を構成するというのは研究授業なんですけど、公開授業はもうフルで、いつでもいいんでしようという感じにしていけばいいと思っていて、もともと、自分が高校の教

員だったときに、いつでも誰でもどうぞというふうに、ずっと初任のときから言い続けているので。それで何があるかって、やっぱり見てくれば何か言ってくれる人間がいるし、逆に言うならば、自分でどうだったって聞きに行くと、いやいや、あそここうだったよねって話で、やっぱり小峰先生おっしゃったとおり、授業が終わってからのところでの職員室の話題というのが明確に、授業の話題と子どもの話題に特化していくんですよ、どんどん。そのために教員やってるところを皆さん分かってくれるといいなと思っているので、葉山小がね、そうやってやってくれることは一つの取っかかりになるかなと。ありがとうございます。若い連中、嫌がって困りますね。

小峰委員) 今はどうか分かりませんが、おせっかいな人もいなくなったと思います。私なんて、大掃除するときにも、ロッカーをどかして掃除したかと聞かれ、えっ、ロッカーって動くんですかとかって言ったら、動くわよって、ガガガッと引っ張り出して、裏も掃除しなさいといわれました。今でも顔を思い出す先生がいるんですけども。そういうふうにしてね、やっぱりいろいろと指導して下さった方が、今思えばありがたいなと思うけど、今、ベテランの人が若い人のところの教室まで踏み込んでいって、そこまで指導するかなっていったら、ちょっとできないですけどね。

教育長) なかなか時代も変わっているので、どうやって若い子たちを解放するかというのをまた考えなきゃいけないかもしれないですね。どうもありがとうございました。

いかがでしょうか。このぐらいでよろしいですか。

それでは、教育委員会活動報告についてはこれをもって終了とさせていただきます。

(議案第7号)

教育長) 日程の第4、議案第7号「令和5年度使用小中学校教科用図書の採択について」を議題といたします。

議案について説明をお願いいたします。教育部長、よろしく願いをいたします。

教育部長) 議案第7号令和5年度使用小中学校教科用図書の採択について。

義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律(昭和38年法律第182号)第13条第1項及び第14条の規定に基づき、小中学校教科用図書を採択する。

(別紙)

令和4年7月19日提出

葉山町教育委員会
教育長 稲垣一郎

提案理由

令和5年度使用小中学校教科用図書を採択する必要があり、葉山町教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第1項第15号の規定により提案するものです。

教育長) ありがとうございます。学校教育課長のほうから補足説明よろしく願いいたし

ます。

学校教育課長) それでは、令和5年度に使用する小中学校教科用図書の採択につきましては、令和4年3月31日付で発出された文部科学省初等中等教育局教科書課長の通知、令和5年度使用教科書の採択事務処理についてを受けて、採択業務を行うこととなっております。

義務教育小・中学校において使用する教科書につきましては、無償措置法施行令第15条第1項の規定により、基本的に同一の教科書を4年間採択しなければならないとされているため、別紙一覧のとおり、今年度と同一の教科書を継続採択することについて承認を求めるものでございます。

また、学校教育法附則第9条第1項に規定する教科用図書について、小学校のほうから願ひ出がございましたので、採択の承認を求めるとでございます。

第9条による教科用図書の採択につきましては、別紙のとおり、小学校教科用図書と同一のものを拡大した、算数及び国語の教科用図書であることを申し添えたいと思います。

以上でございます。

教 育 長) 説明は以上でございます。これより質疑を行います。質疑等ございますでしょうか。よろしいですか。

ご質疑がなければ、これにて終結します。

議案第7号について、承認することにご異議ありませんか。

委員全員) 異議なし。

教 育 長) ご異議なしと認めます。

以上、議案第7号令和5年度使用小中学校教科用図書の採択については、原案のとおり承認されました。

(報告第3号)

教 育 長) 日程第5、報告第3号「教育長の専決事項について」を議題とします。内容について、教育部長、よろしくお願いいたします。

教 育 部 長) 報告第3号、教育長の専決事項について。葉山町教育委員会事務局等の職員の任命について、専決したので報告します。

(別紙)

令和4年7月19日提出

葉山町教育委員会
教育長 稲垣一郎

提案理由

葉山町教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第3条第1項第1号の規定により専決したので、同条第2項の規定により報告するものです。

以上です。

教 育 長) ありがとうございます。別紙の内示等をご覧になっていただければというふうに思います。

これより質疑を行います。質疑等ございますでしょうか。よろしいですか。

質疑がなければ、これにて質疑を終結します。

以上、報告第3号教育長の専決事項については、これをもって終了といたします。

(令和3年度葉山町教育委員会事務点検・評価結果報告書(案)について)

教 育 長) 日程第6「令和3年度葉山町教育委員会事務点検・評価結果報告書(案)について」を議題とします。

内容について説明を、教育部長、お願いいたします。

教 育 部 長) それでは、作成までの流れについてご説明させていただきます。

作成した素案につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定に基づく、学識経験者による知見の活用といたしまして、5月24日に意見交換会を実施いたしました。

その後、事務局内での調整を行いまして、本日教育委員会の定例会に案を提出させていただいております。

この後、8月10日までに本案につきまして各委員からのご意見を頂きたいと思えます。

その後、ご意見を踏まえ、修正等を加えまして、次回8月に予定しております教育委員会の定例会に議案として提案をさせていただき、ご承認を頂ければ9月に議会に提出、その後、公表という流れになります。

以上です。

教 育 長) ありがとうございます。これより質疑を行います。

作成の流れについての別紙をご覧頂きまして、何かございましたらご意見等をお願いいたします。いかがでございましょうか。いいですか。

ご質疑がなければ、これにて終結します。

事務点検・評価結果報告書(案)について、報告されたスケジュールのとおり進めるということで、ご異議ございませんか。

委 員 全 員) 異議なし。

教 育 長) ご異議なしと認めます。

以上、令和3年度葉山町教育委員会事務点検・評価結果報告書(案)についてはこれにて終了いたします。

(その他)

教 育 長) 日程第7「その他」についてを議題といたします。

その他案件、何かございますでしょうか。鈴木委員、どうぞ。

鈴木委員) 図書館長に。8月は増えるのかな、休みだから。その辺ちょっと気にしてて、コロナの問題があるので、どういうふうにしようという。特に換気のことが気になるんだけど、やってもらわなきゃいけないんだけど。

教育長) 図書館長、何か今後の方針ですとか、いろんなことがあればお知らせください。

図書館長) 換気につきましては、役場で規定されているとおりにしております。

あと、クーラー・空調と換気との兼ね合いなんですけれども、バランスが取れていればずっと、学習室については窓開けていきたいかなとは思っております。

教育長) ありがとうございます。鈴木委員。

鈴木委員) 人が増える時期だから当然のことなんでね。ましてや、今、節電の時期でもあるので、増えてくるんだけど、当然みんなその意識を持つてると思うけどね。インフルエンザも増えてくるようなんで。換気が一番大事だろうと思っているんで、雨なんかのときにどういうふうにするか、難しい判断は現場で任せるしかないんだけど。常に換気は気をつけていただきたいと。ぜひお願いいたします。

教育長) よろしく申し上げます。図書館長、どうぞ。よろしいですか。

図書館長) 分かりました。

教育長) 図書館の入り口のところのコロナの啓発ポスターみたいなもの、一回外したんじゃないかな。まだそのまま貼ってありますか。

図書館長) 啓発のポスターは外したんですけども、2メートル目安に、話す時にはマスクをつけてくださいという国のポスターをその代わりに貼りました。

教育長) 分かりました。ありがとうございます。本当にこれから先、利用者が増えていく中で、図書館のところの中でうつつたということが当然ね、言われることがないようにできるだけ、100%無理ですので、ぜひ利用者の方々にもご理解を頂きながら進めるというのが重要だと思いますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

鈴木委員、何か。

鈴木委員) すみません、今度は濱名課長に。9月になって不登校が増える確率がいつも高いんでね、5月の連休と夏休みと。そのことは学校長も含めて皆さん分かっているんだろうけど、もう一回家庭も含めて、そういう現象が出やすい、夏休みでどうしても学校から離れる。誘惑が非常に多いので。各学校もね、そういうことを想定した上で、学校はそれは理解してると思うけど、各家庭でその誘惑等の問題がある、そのことによって9月から不登校になりやすいんだということをできれば周知徹底をできる限りしてもらいたいなど。不登校にならないように、学校としては全力を挙げてほしいということをお願いしておきます。

教育長) 学校教育課長、何かありますか。どうぞ。

学校教育課長) その件については、国のほうからも実は通知がございまして、かなり自殺率が全国的に高くなってるというような数値も出ております。その周知文を受けて、各学校に

は再度それぞれ個人面談や教育相談、あるいは今現在行っている3者面談の中でしっかり話題として取り扱っていただくようお願いしました。夏休み前と、それから夏休み中、そして夏休み明けすぐのところも、気になるお子さんは個別にしっかり把握をし、お話をするようにお伝えをしています。

鈴木委員) ぜひお願いいたします。

教育長) その他案件、ほかにございますでしょうか。下位委員。

下位委員) 先月、6月28日に第1回葉山町青少年問題協議会に参加してまいりましたので、ご報告させていただきます。

年に2回がございますが、その1回目でございます。最初に話題となりましたのは、子ども会が28の町内会に対して今12団体しか存在しないということでした。もっと増やしていかなきゃいけないよねと。習い事が多い、保護者の負担が多い、コロナ禍で活動が少ない等の理由で、今は減りつつあるという状況ということございました。町内会との連携など大切な事業なので、盛り上げてほしいという意見が多く出ておりました。

葉山町PTA連絡協議会の代表の方より、防災備蓄食、PTAが用意する備蓄食の報告がありました。PTAが主体となり、準備した防災の備蓄食です。長期保管ではなく、年度ごとに交換しています。去年が1年目で、今年が2年目ということで、去年度は一度も使うことがなかったので、本年度の分が入ってきたら去年年度のは返しますというお話でございました。

あと、交通指導員という名称が間違っているかもしれませんが、何で廃止されたのか、という話が出てまいりました。通学路の安全確保に逆行するのはおかしいんじゃないのというお話がありました。これに関して事務局のほうですぐに調べていただきまして、警備法の問題ですとか、予算の問題ですとか、そういうところで今はなくなっているんですよという話でした。これに代わってですね、町内会、一部の町内会の方が同じ場所立ってくださっているという事情が今あるんですけども、こういう方にも何かしらお礼をしなきゃいけないんじゃないか、というような話も出ておりました。

あと、ヤングケアラーの問題ですとか、他に何点かありました。健全育成部会という部会があるんですけども、こちらの挨拶運動は例年どおり実施するという決まりました。

報告は以上です。

教育長) ありがとうございます。下位委員が代表して出ていただいたところの報告でございます。

PTAの防災備品については、本当にご努力で、一人一人のところの保護者から500円ずつでしたっけね、徴収をして、各学校のところで年度年度の防災備品をサイクルでやっていただいているというところがあります。町としてそれをどうするかという今後の多分課題は残ってくるかと思いますが、現状は保護者の方が一生懸命やっ

てくださっていることもございますし、PTAの役員の方々のご努力も相当あると思いますので、それについても町がしっかりと理解すべきだと思っています。

交通指導員の廃止についてのところについては、物の考え方が変わったというところは伺っておりますので、またそのボランティアでやっただいてくださっている方々に対して何をどうするかというところも、またこれも考えていかなければならないことでしょうね。分かりました。ありがとうございました。

ほかにその他案件はございますでしょうか。よろしいですか。

ないようでしたら、主な行事予定について、教育部長のほうからご説明を差し上げます。よろしく願いいたします。

教育部長) 7月28日から30日、第54回草津町親善水泳教室。

8月2日、中学生・高校生議会。

17日、定例教育委員会の予定。

26日、湘三管内教育長会議。

8月17日の定例教育委員会の予定はよろしいでしょうか。

それでは、17日、午前10時ということでよろしく願いいたします。

以上です。

(閉会宣言)

教育長) ありがとうございました。それでは以上をもちまして本日の日程は全て終了いたしましたので、これにて閉会といたします。

時刻は11時45分です。ありがとうございました。